



# 近藤じゅん子 通信 Vol.5

## 近藤じゅん子が「被災者支援システム」を提案・実現に!!

「シブボラ」をさらに推進!  
「認知症対策」もより強化!

### 第4回定例会・区議会公明党の代表質問より

平成28年11月24日



### 防災対策

#### 避難所の運営について

**質問** 避難所生活は、住民が主体となつて行うべきものですが、その運営のバックアップ体制は、区の災害対応業務の、根幹の一つと言えます。

現在、避難所運営協議会が設置され、毎月、協議会を開催している地域もあります。

また、避難所運営協議会が、立ち上がったばかりの所もあります。

地域によって、避難所運営にバラつきがでないように、バックアップ体制の現状と、今後の取り組みをお聞かせください。

**答弁** (区長) 議員のご指摘のとおり、「避難所運営委員会」が立ち上がったばかりのところもあります。

避難所の運営にバラつきが生じないように、区職員による「避難所運営委員会」の定例会議への参加、避難所運営訓練の支援など積極的に行い、地域の防災力の向上に向け、自助、共助、公助に基づいた震災対策を進めてまいります。

#### 「被災者支援システム」導入について

**質問** 「被災者支援システム」は、阪神・淡路大震災で、壊滅的な被害を受けた兵庫県西宮市が、独自に開発したシステムで、現在、全国の地方公共団体に無償で公開・提供されています。

最大の特徴は、住民基本台帳のデータをベースに被災者台帳を作成し、これを基に、り災証明書の発行、支援金や義援金の交付、救済物資の管理、仮設住宅の入居など被災者支援に必要な情報を一元的に管理しま

す。これによって被災者支援業務の効率化はもとより、被災者支援業務の正確性及び、公平性を図る事ができます。

首都直下型地震は30年以内に70%の確率で、発生すると言われていています。当区としても速やかな導入・運用を提案します。

**答弁** (区長) 大規模災害発生時には、り災証明書発行の前提となる住家被害認定調査等の業務量は極めて膨大となり、業務の効率化が不可欠となります。

このため、あらゆる情報を収集・集約・共有するためには、議員ご提案の「被災者支援システム」の導入は有効であります。

本区としましては、新庁舎への移転に合わせた「防災情報システム」の検討と並行しながら、「東京都被災者生活再建支援システム協議会」に参加し、速やかな導入と、適切な運用を図ってまいりたいと考えます。

#### 帰宅困難者対策について

**質問** 利用者数の多い、恵比寿駅・原宿駅周辺に於いても、帰宅困難者対策の拡充が急務かと思われまます。まずは、各駅周辺地域に、帰宅困難者対策協議会を設立していくべきだと考えます。

恵比寿駅そして、原宿駅周辺地域の再開発計画と並行して、「帰宅困難者対策協議会」の設立を提案します。

**答弁** (区長) 議員のご指摘の通り、原

宿駅、恵比寿駅周辺におきましても、「帰宅困難者」が多数発生すると考えられ、事業者相互に連携・協力する仕組みが必要と考えっております。

現在、地域における代表的な事業者と協議を行っており、今後、順次、各駅周辺地域の「帰宅困難者対策協議会」の設立に向けて取り組んでまいります。

### 認知症対策

#### 「キャラバンメイト」養成研修について

**質問** キャラバンメイトとは、「認知症サポーター養成講座」の講師役となる人の事です。

キャラバンメイトが増えることにより、「認知症サポーター養成講座」を出前式で、フレキシブルに実施できるようになります。認知症サポーターが増えることにより、地域の認知症サポート体制の基盤を作ることへも繋がっていきます。

キャラバンメイト養成研修を区の事業として開催することを提案させていただきます。

**答弁** (区長) 認知症に対する正しい知識の普及・啓発を目的とした認知症サポーターの養成を本区としても推進しているところです。その達成に向けて講師役となるキャラバンメイトの養成が不可欠です。

新たに本区主催による研修会

が必要だと考えています。そのため、現在、来年度開催に向けて調整を進めています。

今後、参加者の状況、ニーズを見極めながら、状況に応じて、キャラバンメイトの養成に取り組んでまいります。

## 若年性認知症について

**質問** 65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」といい、全国で4万人近くにも及ぶと言われています。

発症初期の段階から、適切な支援を受けられるよう、医療機関や区役所・出張所・地域包括支援センター等の関連施設などを通じて、若年性認知症と診断された人や、その家族に、厚生省が作成した「若年性認知症支援ハンドブック」を配布すること。

適切なサポートを行うため、若年性認知症の理解を深める講座などを併せて展開していくことにより、普及・啓発が進んでいくのではないかと考えます。

また、「東京都若年性認知症総合支援センター」と連携を密にしながら、ニーズの掌握も進め、若年性認知症専門デイサービス等の拡充や居場所づくり、若年性認知症に特化した認知症カフェの創設を提案します。

**答弁**（区長）議員ご提案の「若年性認知症ハンドブック」の配布については、厚生労働省作成のハンドブックなどを活用して、要

支援者へのサポートに取り組んでまいります。

また、区民に対する啓発については、認知症サポーター養成講座の中で、若年性認知症について、理解の浸透に努めてまいります。

若年性認知症の方は、高齢者との生活スタイルが異なることから、認知症高齢者と同じサービスを受けることは難しいと聞いております。そこで、けやきの苑・西原で実施している若年性認知症デイサービス利用者や、ご家族から意見を聞くなどニーズの把握に努め、居場所づくりや、それに特化した認知症カフェの創設について検討してまいります。

## 子育て支援

### 「シブボラ」について

**質問** 渋谷版子育て世代包括ケア・「シブボラ」について質問します。

この夏、会派の久永かおる議員と、中野区の助産院のシヨートステイなどの産後ケアを視察させて頂きました。その中で、出産直後のデリケートな時期に受けた、些細な言動によって、育児に対し、前に進めなくなるケースなどを学びました。

今後、出産直後の母子が利用できる、シヨートステイや、デイ

ケアを導入し、母親の心身のケア・乳児ケア・育児に関する指導・カウンセリング等。きめ細やかな支援の実施を望みます。

また、産前産後の母親に寄り添い、相談相手として、育児も家事も両方を充分に行えるドゥーラの導入を重ねてお願いしたいと思っております。

**答弁**（区長）産後すぐの時期に、ご家庭等から十分な支援を受けられず、体力的・心理的負担が大きいため、その支援策の一環として、出産直後のシヨートステイなどのサービスを提供することは、母親の負担軽減策の一つとして有効と考えますので、実施に向け検討を行います。

また、ドゥーラですが、育児支援ヘルパーに、保健所等と連携した「産後のこころケア」の研修を実施し、さらにきめ細かい支援を行えるよう考えます。

**質問** 当区で実施中の、子育て支援サービスのうち、有償の事業である「赤ちゃんシヨートステイ」に「こころママ」「子どもシヨートステイ」「一時保育」に、東京都が100%助成を行っている、「出産・子育て応援事業」を活用し、利用者の負担を軽減し、子育てに奮闘中の、パパ・ママが使いやすいものにしていくことも検討をお願いします。

**答弁**（区長）各種有償事業の負担額の軽減については、住民税の課税状況等に鑑み、世帯の状況

に応じた配慮を行っています。

ご提案の都助成制度の活用を含め、利用者にとってより使いやすい制度となるよう、貴会派から、別途ご提案頂いている渋谷版ネウボラ「シブボラ」の体制を検討する中で充実を図り、渋谷らしい子育て支援の一層の充実に努めたいと考えてます。

### 「こどもテーブル事業」について

**質問** 「こどもテーブル事業」開設資金等の助成についてです。

食事だけに特化せず、「地域の絆」で、子供を守り・育てようとの活動理念に賛同し、渋谷区こどもテーブルは、現在9か所に広がっています。

どこの地域でも、子育てを通じた強い絆が結ばれていくために、今後、「こどもテーブル」開設資金等の助成を、実施する計画は、ありますでしょうか。

**答弁**（区長）「こども基金」の創設に向け準備を進めており、この基金を活用していく予定です。活動拠点の拡大のため、施設の活用を支援し、地域で子育ての連帯意識が高まるよう、PR活動等の取り組みも行っていく考えです。



一人の声に真剣！暮らしに全力投球

いつでもお気軽にご相談ください

渋谷区議会議員 近藤じゅん子

- 福祉保健委員会
- 五輪・パラリンピック対策特別委員会

渋谷区議会公明党控室  
TEL. 03-3463-1036 FAX. 03-5458-4962  
携帯 090-2221-7507  
近藤じゅん子のブログ  
<http://ameblo.jp/kondo-junko/>

